平成２６年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

<table>
<tr><td>指定期間</td><td>ふりがな</td><td colspan="5">かなざわだいがくにんげんしゃかいがくいきがっこうきょういくがくるいぶぞくこうとうがっこう</td><td>②所在都道府県</td><td>石川県</td></tr>
<tr><td>26～30</td><td>①学校名</td><td colspan="5">金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">③対象学科名</td><td colspan="5">④対象とする生徒数</td><td colspan="2">⑤学校全体の規模</td></tr>
<tr><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td><td>４年</td><td>計</td><td colspan="2" rowspan="4">１学年３クラス約 125 人
３学年生徒総数 377 人</td></tr>
<tr><td>普通科</td><td>125</td><td>125</td><td>127</td><td></td><td>377</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>⑥研究開発構想名</td><td colspan="8">北陸からイノベーションで世界を変えるグローバル・リーダーの育成</td></tr>
<tr><td>⑦研究開発の概要</td><td colspan="8">イノベーションを創生できるグローバル・リーダーを，地域から高大連携により育成するプログラムを提案するため，相互に関連する３つの研究開発を行う。Ⅰ地域から世界へと発展する一貫した課題研究カリキュラム開発。Ⅱ課題研究の質を高める外部資源活用方法の開発。Ⅲ課題研究の基礎をなす既設教科の内容と方法の改善。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">⑧研究開発の内容等</td><td>⑧-1 全体</td><td>

(1) 目的・目標

本構想では，**グローバル課題に対応して地域発のイノベーションを創生できる人間力**（基礎的教養，課題対応能力，英語運用力，グローバル・マインド，リーダーシップ）を有する者をグローバル・リーダーとみなし，こうした人間力を，**金沢大学**及び**東アジア諸地域**の大学や高等学校との連携を通して育成する**シームレスな高大連携プログラム**を提案することを目的とする。**本校生徒全員**がグローバル課題解決のために外部資源を活用した実地調査を行い，解決策を外部に発信することを通して，イノベーション能力を持つグローバル・リーダーを目指し、自己研鑽や社会貢献に参加し，CEFR の B1-B2 レベルに達し，９割の生徒が国際化に重点を置く大学に進学することを目標とする。

(2) 現状の分析と研究開発の仮説

本校は，「地球サイズの教育」を謳い，約 20 年にわたり「総合的な学習の時間」で先進的な課題研究を実践している。実際，近年の台湾現地学習を通して，生徒に異文化理解が芽生え，探究力が育ち，プレゼンテーション能力が高まった。本校の強みを生かし，さらに，グローバル課題に対応した地域発のイノベーションを創生するためには，次の３つの開発研究単位が有効であると考えた。２国間の異文化比較に止まらず，**北陸の地域課題に対する深い理解を出発点とし，さらにグローバル課題へと視野を段階的に広げるために，「地域課題研究」・「異文化研究」・「グローバル提案」・「グローバル・キャリアパス」という同心円的に発展する一貫した課題研究のカリキュラムを開発する**ことが有効であると考え，これを研究開発単位Ⅰとした。また，各課題研究では，**金沢大学の知的資源**を活用するのみならず，地域の大学・企業・自治体等の協力，留学生の活用，**東アジア諸地域の大学や高等学校**との交流など，**様々な形態の外部資源を有効活用する研究**が重要であると考え，研究開発単位Ⅱとした。その際，国内では北陸先端科学技術大学院大学（JAIST），海外では台湾師範大学（同附属高級中学校）・北京師範大学（同附属高校）・香港大学・ソウル国立大学・釜山国立大学・釜山科学英才アカデミー・ウラジオストク国立経済サービス大学（同附属国際言語学校）等東アジアの拠点大学と連携する。さらにグローバルな課題解決のためには，**既設教科の内容と方法を改善し，幅広い基礎的教養の習得と英語運用力を育成**する機会を充実することも大切であると考え，研究開発単位Ⅲとした。これらの研究開発全体を通して，グローバルな課題に対してイノベーションを創生する人間力が育成されるという仮説を立てた。

(3) 成果の普及

研究実践報告会を年１回開催し，研究実践報告書を発行する。また，英語版・日本語版ホームページを立ち上げ，研究成果を発信する。

</td></tr>
</table>

	⑧-2 課題研究	**(1) 課題研究内容** 本構想では，課題研究として**「地域課題研究」・「異文化研究」・「グローバル提案」・「グローバル・キャリアパス」**の４つを実施する。これらを通して，イノベーションにより，環境，安全保障，経済発展等の面において持続可能な共生社会の創生を提案する。**「地域課題研究」**では，「世界農業遺産能登里山里海の保全」などグローバル社会とつながる地域課題の解決策を構想する。**「異文化研究」**では，「日台環境問題比較」など日本と台湾の環境・社会・経済等を比較調査し，相互の文化の共通点や相違点を発見する。**「グローバル提案」**では，「東アジアの公害問題」などグローバルな社会的課題の解決策について調査研究する。それをもとに東アジアの高校生と模擬国際会議方式で議論して合意を形成しつつ，解決策を提案する。**「グローバル・キャリアパス」**では，持続可能な共生社会の創生に向けてのアクション・プランを立て，高校段階で可能な行動を実行するとともに，アクション・プラン実現のためのキャリアパスを描く。 **(2) 実施方法・検証評価** **・実施方法** **「地域課題研究」**：金沢大学地域連携推進センター・地域創造学類の教育研究の強みを生かし，里山里海生態系，地域再生，石川の伝統産業，ニッチ産業等の調査を行い，グローバル社会につながる地域課題を発見する。そして，その課題解決策を構想し，「地域課題解決プランニング」のプレゼンテーションを行う。 **「異文化研究」**：環境・社会・経済に関する日台双方の状況についての国内事前調査，現地における台湾師範大学生との共同調査を行い，成果発表会で調査結果をプレゼンテーションする。また，同附属高級中学校生徒と環境・安全保障・経済発展などグローバルな社会課題について討論を行い，課題認識をレポートにまとめる。 **「グローバル提案」**と**「グローバル・キャリアパス」**は平成 27 年度から年次進行で実施するが，平成 26 年度はこれらの研究課題の方法・内容を検討する。 **・検証評価** 研究開発単位Ⅰ：「地域課題研究」と「異文化研究」をつなぐことによって，地域に根差したグローバル課題を発見することができたか，異文化に対する多面的・俯瞰的理解が深まったか。 研究開発単位Ⅱ：外部資源の活用が，地域課題の発見を促進させたか，探究の質を高めたか，英語運用力を向上させたか。 人間力の構成要素を取り入れた評価シートによる，教員評価，自己評価，相互評価，第三者評価（海外高校生・専門家・研究大会参加者）を行う。 **(3) 必要となる教育課程の特例等** 総合的な学習の時間を用いて実施する。教育課程の特例を必要としない。
	⑧-3 上記以外	**(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価** グローバル・リーダー育成のため既設教科の内容と方法の改善を研究開発単位Ⅲとする。教科の改善と教科横断により課題研究の質を高め，グローバル・リーダーとしての基礎的教養，論理的思考スキル，多面的・多角的思考，データ解析スキル，英語による交渉力を向上させる。そのためにロジックツリー，新聞比較，統計ソフト活用，科学誌講読等を実施し，校内研修会，研究報告会を開催し，パフォーマンス評価，生徒アンケートにより質的・量的な検証評価を行う。 **(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等** 現行指導要領の各教科の内容に軽重をつけ，学習方法を工夫することで対応する。 **(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程外の取組内容・実施方法** 海外研修生の積極的受け入れ。生徒会行事・部活動・生徒指導を通してのリーダーシップ育成のための環境整備を行う。また，現行のカリフォルニア州 Stevenson School との「グローバル・クラスメート」事業を，英語による英語運用力の基盤とする。
⑨その他特記事項		金沢大学は**日本海側唯一**の附属高校を有する大学である。**金沢大学**と**一体**となって，**全教員・全生徒**により本事業に取り組む。

ふりがな	かなざわだいがくにんげんしゃかいがくいきがっこうきょういくがくるいふぞくこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校		

平成２６年度スーパーグローバルハイスクール　目標設定シート

１．本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
a	自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	360人
	SGH対象生徒以外:	人	15人	人	人	人	人	人	人
	目標設定の考え方:SGH事業により，すべての生徒が取り組むことを目指す。								
b	自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	2人	2人	人	人	人	人	人	人
	目標設定の考え方:SGH事業により，海外志向が強まる。								
c	将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	%	20%	%	%	%	%	%	%
	目標設定の考え方:特別な場合を除いて，SGH事業により潜在的意識を掘り起こす。								
d	公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:	人	6人	人	人	人	人	人	人
	目標設定の考え方:SGH事業で積極的な参加を勧めていくため。特にチームでの出場を念頭に置いた。								
e	卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	95%	95%	%	%	%	%	%	%
	目標設定の考え方:現在において本校のレベルは高いが，SGH事業でさらに向上させる。								
f	（その他本構想における取組の達成目標）								
	SGH対象生徒:								240人
	SGH対象生徒以外:		15人						
	目標設定の考え方:SGH事業により，最低でも年1回，1･2年生全員参加するような意識にさせる。								

1’指定4年目以降に検証する成果目標

		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(30年度)
a	国際化に重点を置く大学 へ進学する生徒の割合								
	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	90%	90%	%	%	%	%	%	%
	目標設定の考え方:現在、すでにそのような大学に進学する生徒の割合は高い。海外大学への進学の増加なども考え，現状維持とした。								
b	海外大学へ進学する生徒の人数								
	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	6人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	人
	目標設定の考え方:現状はほとんど進学する者はいないが，SGH事業により海外大学への進学も視野に入れさせる。								
c	SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	－	－	%	%	%	%	%	%
	目標設定の考え方:キャリアデザインなどにより，特別な状況を除き、影響を与える。								
d	大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:	－	－	人	人	人	人	人	人
	目標設定の考え方:国際化に重点を置く大学や海外大学への進学の割合の目標から算出。								

2．グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数	124人	124人	人	人	人	人	人	155人
	目標設定の考え方：現状の1年生全員に加え，2年生の希望者を加える。								
b	課題研究に関する国内の研修参加者数	0人	0人	人	人	人	人	人	125人
	目標設定の考え方：1年生全員参加する。								
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数	1校	1校	校	校	校	校	校	10校
	目標設定の考え方：すでに10校と連携の内諾をとっている。								
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数（人数×回数）	33人	21人	人	人	人	人	人	200人
	目標設定の考え方：現在は台湾師範大学の教員・学生のみだが，SGH事業により，金沢大学・JAISTなど連携大学と盛んに連携するため。								
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数（人数×回数）	0人	0人	人	人	人	人	人	50人
	目標設定の考え方：地元企業との連携や，グローバル提案などで機会を設けていく。								
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数	人	130人	人	人	人	人	人	200人
	目標設定の考え方：SGH事業で積極的な参加を勧めていくため。特にチームでの出場を念頭に置いた。現状の約1.5倍を目指す。								
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数（留学生も含む。）	1人	2人	人	人	人	人	人	5人
	目標設定の考え方：増加を目指すが，地域の特性を考慮。								
h	先進校としての研究発表回数	1回	0回	回	回	回	回	回	2回
	目標設定の考え方：SGH事業発表会1回。授業研究会1回。								
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている　△一部整備されている　×整備されていない	×	×						○
	目標設定の考え方：早急に整備していく。月に1度は必ず更新する。								
j	（その他本構想における取組の具体的指標）		0人						300人
	目標設定の考え方：SGH発表会で200人，そのたSGH化した授業見学などで100人。								

＜調査の概要について＞

1．生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数（人）	379	381	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							